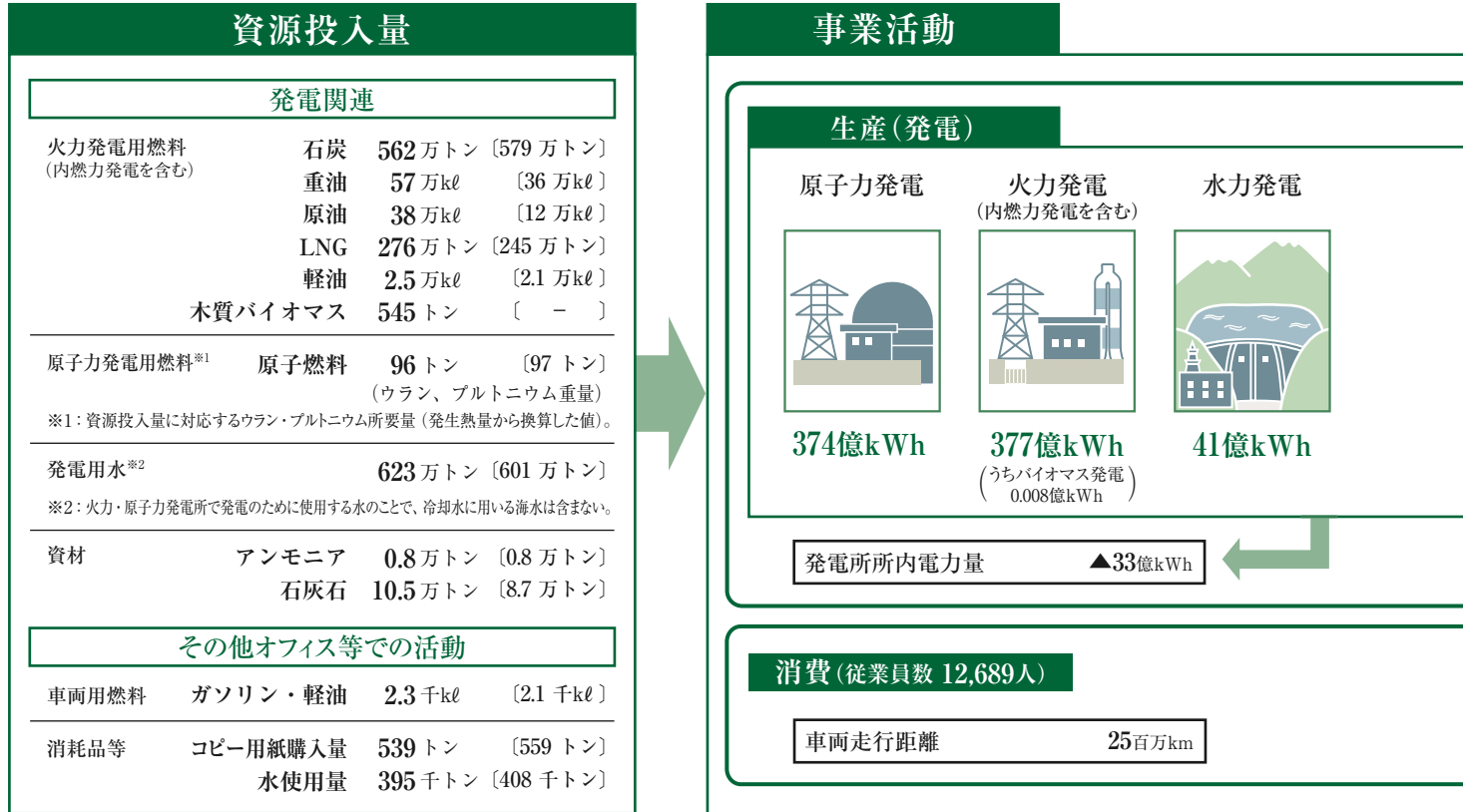


事業活動と環境負荷の状況 (2010年度)

下図は、当社での資源や資材の投入から、生産（発電）及び購入、電力輸送をとお客さまへ電気をお届けするまでの間に、どのくらいの資源、エネルギーを消費し、どのような環境負荷が発生しているのかについて表したものです。

今後も、この現状を踏まえ、更なる環境負荷低減に努めていきます。



(注) []内は2009年度の実績値。

【想定低減量の算出方法】

CO₂排出抑制量

- 発電・電力購入による低減量：原子力による電力量を火力発電（石炭・LNG・石油）で、再生可能エネルギー（水力は揚水除く）による電力量を全電源（CO₂排出クレジット反映後）で賄ったと仮定した場合をベースラインとして算出。
- 設備の効率向上：1990年度の熱効率や送配電ロス率をベースラインとして算出。

SF₆回収量

点検・撤去時に機器に充填されているSF₆の回収を行わなかった場合をベースラインとして算出。

オフィス省エネによるCO₂排出抑制量

事業所において、省エネ設備対策を行わなかった場合をベースラインとして算出。

社用車への低公害車導入によるCO₂排出抑制量

クリーンエネルギー車、低燃費車の導入を行わなかった場合をベースラインとして算出。

SO_x低減量

発電所において、脱硫処理や低硫黄燃料の使用を行わなかった場合をベースラインとして算出。

NO_x低減量

発電所において、脱硝処理を行わなかった場合をベースラインとして算出。

※3：事業活動において、環境負荷低減対策を実施しない場合等の環境負荷レベルをベースラインと想定し、実際の環境負荷レベルとの差により算出した量。

※4：「2010年度の当社販売電力量あたりのCO₂排出量（CO₂排出クレジット反映後）」を使用し算出。

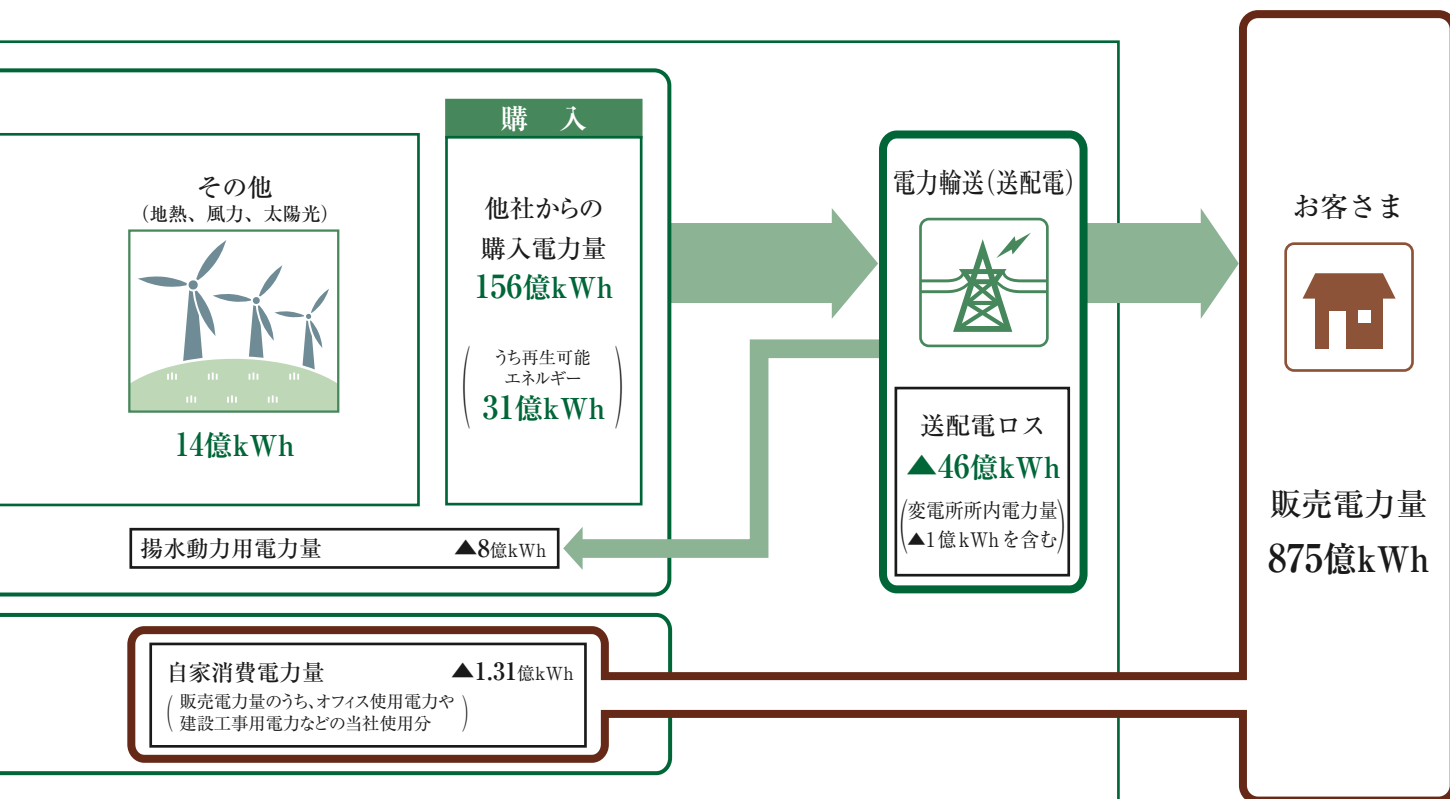
環境負荷低減量

想定低減量^{*3}

CO ₂ 排出抑制量 (原子力、再生可能エネルギー、CO ₂ 排出クレジットなどによる)	3,300 万トン-CO ₂
SF ₆ 回収量	55 万トン-CO ₂ 回収率99%
オフィス省エネによるCO ₂ 排出抑制量 ^{*4}	601 トン-CO ₂
社用車への低公害車導入によるCO ₂ 排出抑制量	515 トン-CO ₂
SO _x 低減量	6.1 万トン
NO _x 低減量	1.9 万トン

実低減量

社有林によるCO ₂ 吸収固定量 ^{*5}	0.3 万トン-CO ₂
産業廃棄物リサイクル量	81.4 万トン リサイクル率約100%
低レベル放射性廃棄物減容量 ^{*6} (200ℓドラム缶相当)	2,597 本
古紙リサイクル量 (コピー用紙のほか、新聞、雑誌、ダンボール、機密文書を含む)	1,262 トン リサイクル率100%
中水・雨水活用量	28 千トン



(注) 電力量については、四捨五入のため合計値が合わないことがある。

環境負荷量

発電関連

温室効果ガス排出量	CO ₂ 3,050 万トン-CO ₂ [2,910 万トン-CO ₂] (うち、自家消費電力分4.6万トン-CO ₂ *4) (他社購入電力量分を含む)
	N ₂ O 5.1 万トン-CO ₂ [4.3 万トン-CO ₂]
	HFC 0.21 万トン-CO ₂ [0.11 万トン-CO ₂]
	SF ₆ 3.6 万トン-CO ₂ [3.9 万トン-CO ₂]
オゾン層破壊物質排出量*7	0.8 ODPトン [0.1 ODPトン]
大気汚染物質排出量*8	SOx 1.8 万トン [1.4 万トン] NOx 2.6 万トン [2.5 万トン]
排水負荷量*9	90 トン [80 トン]
COD排出量*10	6 トン [7 トン]
産業廃棄物埋立処分量 (有効利用分の石炭灰を除く)	0.2 万トン [0.2 万トン]
低レベル放射性廃棄物発生量*11 (200ℓドラム缶相当)	4,306 本 [4,156 本]

その他オフィス等での活動

車両CO ₂ 排出量	0.5 万トン-CO ₂ [0.5 万トン-CO ₂]
古紙処分量	0 トン [0 トン]
上水使用量	367 千トン [373 千トン]

*5: 森林調査に基づく実測値から、日本国温室効果ガスインベントリ算定方法に基づき算定。

*6: 発生した低レベル放射性廃棄物を焼却や圧縮等の処理により減じた容積を、200ℓドラム缶の本数に換算した値。

*7: 各フロン種のオゾン層破壊係数を用いて、CFC-11重量相当に換算。

*8: 火力(内燃力含む)発電所ごとに「総排ガス量×排ガス中の濃度」を重量換算した値の合計値。

*9: 火力(地熱含む)・原子力発電所の排水処理装置で処理した排水に含まれる水質汚濁物質ごとに、濃度と排水量を用いて負荷量を算出し、それらに当社独自の重み付け係数を乗じてCOD(化学的酸素要求量)重量相当に換算したものの合計値。

*10: 火力(地熱含む)・原子力発電所において、排水処理装置で処理した排水に含まれるCOD(化学的酸素要求量)の合計値。

*11: 実際に発生した量から減容した量(*6)を差し引いた正味の発生量を、200ℓドラム缶の本数に換算した値。

(注)〔 〕内は2009年度の実績値。